

基礎看護学実習Ⅱ

責任者・コーディネーター	共通基盤看護学講座 菖蒲澤 幸子 教授		
担当講座・学科(分野)	共通基盤看護学講座 地域包括ケア講座 成育看護学講座		
対象学年	2	区分・時間数	実習 75 時間
期 間	後期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

受け持ち患者のニーズを理解し、日常生活援助等の看護技術を実践するとともに基本的な看護過程の展開について学ぶ。また、高度な治療を受けている患者に対し看護職がプロフェッショナルとしてどのような実践を行っているか、専門職としてのクリティカルシンキング、コミュニケーション等について学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

患者を一人受け持ち、教員や実習指導者の助言を受け、その患者の看護過程を展開しながら実践することができる。また患者のニーズに応える援助とはどういうことなのかを考え、それらをまとめ表現することができる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 6

・到達目標（SBO）

1. 看護の目的をもって対象者に関心を寄せ、言語表現・非言語表現を用いた対象との相互作用を通して関係を形成することができる。
2. 対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集でき、その情報を整理してアセスメントし、全体像を描くことができる。
3. 全体像を描きながら対象者のニーズを見出し、優先順位を決定することができる。
4. アセスメントに基づく看護計画の立案と看護実践の方法を見出し、実践することができる。
5. 看護過程全体を振り返り評価することができる。
6. 振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる。

・ 授業日程
【実習】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
1 週目 8/30 (月) ~ 9/3 (金)			共通基盤看護学講座 共通基盤看護学講座 共通基盤看護学講座	菖蒲澤 幸子 教授 柏木 ゆきえ 特任准教授 小林 由美子 講師 看護学教員 (教授を除く)	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションを受ける 2. 原則として1名の学生が1名の患者を受け持ち、看護過程を展開しながら看護を実践する 3. 実習中の看護実践や見学をしていく中で、看護実践の根拠や看護師の思考について学ぶ 4. 実習報告会を通して、実施した看護を振り返ることができる <ul style="list-style-type: none"> ・看護の目的をもって対象者に関心を寄せ、言語表現・非言語表現を用いた対象との相互作用を通して関係を形成することができる ・対象者の状況に応じて看護に必要な情報を収集でき、その情報を整理してアセスメントし、全体像を描くことができる ・描いた全体像から対象者のニーズを見出し、優先順位を決定することができる ・アセスメントに基づく看護計画の立案と看護実践の方法を見出し、実践することができる ・看護過程を振り返り、評価することができる ・振り返りを通して、自らの看護の特徴を理解し、学修課題の明確化と実践の修正ができる <p>※詳細は実習要項に記載する。</p>
2 週目 9/6 (月) ~ 9/10 (金)					

・ 教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	看護学概論 第17版	茂野香おる 編集	医学書院	2020
教	基礎看護技術Ⅰ 第5版	深井喜代子 編集	メヂカルフレンド社	2017
教	基礎看護技術Ⅱ 第4版	深井喜代子 編集	メヂカルフレンド社	2017
教	今日の治療薬 2021 解説と便覧	浦部晶夫、他 編集	南江堂	2021

・ 成績評価方法

基礎看護学実習Ⅱ評価表に基づき評価する。評価表は実習要項に記載。

・ 特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

看護過程展開の記録を課す。記録を整理してわからなかったこと、疑問に思ったことは、調べたり、確認したりしてそのままにしないこと。看護技術ならびに日常生活援助を実施する場合には事前に学修して確実な技術を提供できるようにすること。これらの事前学修時間は最低 90 分を要する。

※記録物の詳細は実習要項に記載する

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

提出されたレポートは、評価後、学生に適宜コメントを付し返却する。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

看護師（別表 3）：臨地実習 専門分野Ⅰ 基礎看護学

・ 授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習要項に記載する。			